



学校だより

児童数：619名（男：342名 女：277名）

学校教育目標 ◎かしこく ◎なかよく ◎たくましく ◎心ゆたかに



校庭の金木犀



ブックワールドの掲示より

校長 戸野塚 晃

例年ですと校庭の木々も紅葉が少しずつ深まり、秋を感じさせる色合いに衣替えをしていくはずですが、いまだに、緑の鮮やかさが目立つ校庭の景色です。今夏の暑さにより、樹木も人間同様にいつものペースがつかめずに季節の変わり目をさまよっているのかもしれませんが。

さて、先日、本校のブックワールド（学校図書館）に足を運んだところ6年生の児童と読書の話になりました。一昨年の学校便り525号でもお伝えしましたが、私は、小学生の頃からマンガや読書が大好きでこれらは、当時の自分の好奇心を満たす娯楽としては格好のターゲットでした。

そんなこともあり、子どもの読書の様子をうかがっていると、右のポスターが目にとまりました。今の子どもたちが読みたい本を選ぶとこういうランキングになるのかと感心していると、数名の児童が「校長先生、この1位は最高におもしろいですよ」と勧めてきました。「何回でも読みたくなります」、とか「自分で購入したので持ってきてみましょうか」、とか作者が聞いたら泣いて喜ぶような言葉が何人もの児童から飛び出します。話を聞いていると、どうもこのヨシタケシンスケさんという作者が子どもの心をわしづかみにしているようで、そこまで言うのなら、この方の作品を2冊ほど味わってみることにしました。本号を書いている間に感想まで載せることは難しそうですが、少なくとも令和の時代の小学生がお勧めだという本に対して頭の先からつま先まで中身が昭和の私がどこまで理解できるのか、楽しみ半分、不安半分です。

ところで、読書に関してこんな記事を見つけましたが、みなさんは、どうお考えですか。

ネットからの引用のため載せていません

読書新聞オンライン 2022. 2. 27

デジタル機器全盛期の今の時代に紙媒体の本の魅力をどこまで伝えられるのか。それは、ここ数年、私にとっても明確な答えを持ってないままです。もちろん、この紙面でデジタル派か？紙派か？などという安易な選択について語るつもりは毛頭ありません。どちらにもメリット、デメリットはあるのは十分存じていますし、読み手の事情も関係してくることも理解しているつもりです。ただ、読書という手軽で身近な学習活動を通して、ページをめくるたびに心が揺さぶられるような感覚をぜひ味わってほしいという事は、常日頃心から願っています。「読書は、心の栄養」ですから・・・。

毎日の寒暖差が厳しい季節となりました。地域、保護者の皆様、くれぐれもご自愛ください。また、児童の健康、体力向上、そして、学校での教育活動の充実も含めまして引き続きの地域、保護者の皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い致します。